

よく分かる生物多様性

経済・社会・環境のバランスと 名古屋COP10に向けて:

バイテク情報普及会セミナー
丸ビルコンファレンススクエア セミナー会場: Room 5
2009年 12月 2日 17:00 ~ 18:30

香坂 玲 (こうさかりょう)
(元 生物多様性条約事務局 職員)
名古屋市立大学 経済学研究科 准教授

生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10)
支援実行委員会 アドバイザー

国連大学高等研究所 客員リサーチフェロー



今日の話

1. はじめに
2. なぜ生物多様性が必要？
3. COPとは？
4. 誘致が決定したCOP10とは？

今日の目標

皆さんがこれを言えば成功

なあんだ、そうだったのか
これが生物多様性ね
随分 仰々しい言葉だね

もう うちでは
だいぶやっているね
ただ、十分に世界に
伝わっているかなあ

そもそも 多様性って何？

多様性：いろいろな異なるさま、
異なるものの多いさま

(広辞苑第6版)

生物多様性とは？

- 生物多様性は遺伝子、種、生態系の 3つのレベルでとらえられる

*種とは

お互いに交配でき、繁殖能力を持った子孫が生まれる種を「同種」という

- 生物多様性条約 は
環境保全だけの集いではない
(保全・利用・配分) すべてを議論

なぜ生物多様性が必要？

なぜ生物多様性が必要？

皆さんはどう思いますか？

ダイビングを
楽しみたい！

紅葉の季節の
ハイキング

昆虫の
コレクション

なんといっても
山の幸
海の幸

愛知 なごや にとって なぜ生物多様性が必要？

都市・交通の基盤

ヒートアイランド
集中豪雨
の緩和

材料の
調達
食の安全

知恵を授かる
豊かな生活感

「量」から
「質」 Fine

廃棄物の循環

生態系サービス：人間が生態系から得る利益

生態系の劣化は人間生活にどう影響するか

生物多様性が必要な理由

- 便利： 生活の質、命のインフラ
- 存続： 次の世代のために
(文化のダイバーシティを含む)
- 進化： 自己増殖 vs 性



海底
命の起源

日本に もともとある価値観

価値観は変遷する：
昔は多様性よりも生産性

多くの場合「義務色」が濃い（現状）

第三者意見で
書かれたし、
生物多様性で
何かやるかなあ
(広報)

遺伝子組換の
実験もやりづらくなったが、
法令遵守をアピールするか
(技術部)

Win-Win で 行政・企業も多様性もメリットになるはず
差別化のチャンスでもあるのでは。。。

行政・企業活動にとっても

義務: GRI/ 環境アセス(EIA) / 森林経営(SFM)の定義

リスクの分散: 調達時に

工学上リスク
(発生率 x 被害の大きさ)
よりも

**リスク認知と
コミュニケーション**

(国や文化、個人的バイアス、
価値観、教育で異なる)

価値: 多様な価値、雇用、文化、モチベーション

持続的な活動の基盤

本当は アピールのチャンス

無農薬のお茶を
楽しんでもらおう!

ボン市のブース



製品のデザイン

会場



生体模倣（バイオミメティクス）

生体模倣 展示会場

COP9 ドイツ ボン での一場面

COP10では、どんな展示が？



COP コップ とは？

5月のCOP9 / 2010年に誘致が決定したCOP10

いまさら聞けない！ 用語集

- シ-ビ-ディ- CBD
生物多様性条約
- Convention on
Biological Diversity
- コップ COP
締約国会議
- Conference of the
Parties (to the CBD)

COP 締約国会議

- 最高決定機関

- 2年に一度開催

2010年は、第10回締約国会議

- 議長国：開催後から2年

2010年に開催 2010 2012年に議長国

生物多様性条約の構造

191か国の条約国および欧州共同体 (EC)



COPとは？

実施

政府
国際機関
市民社会
民間セクター

ガイダンス

・作業計画
・ガイドラインなど

参加

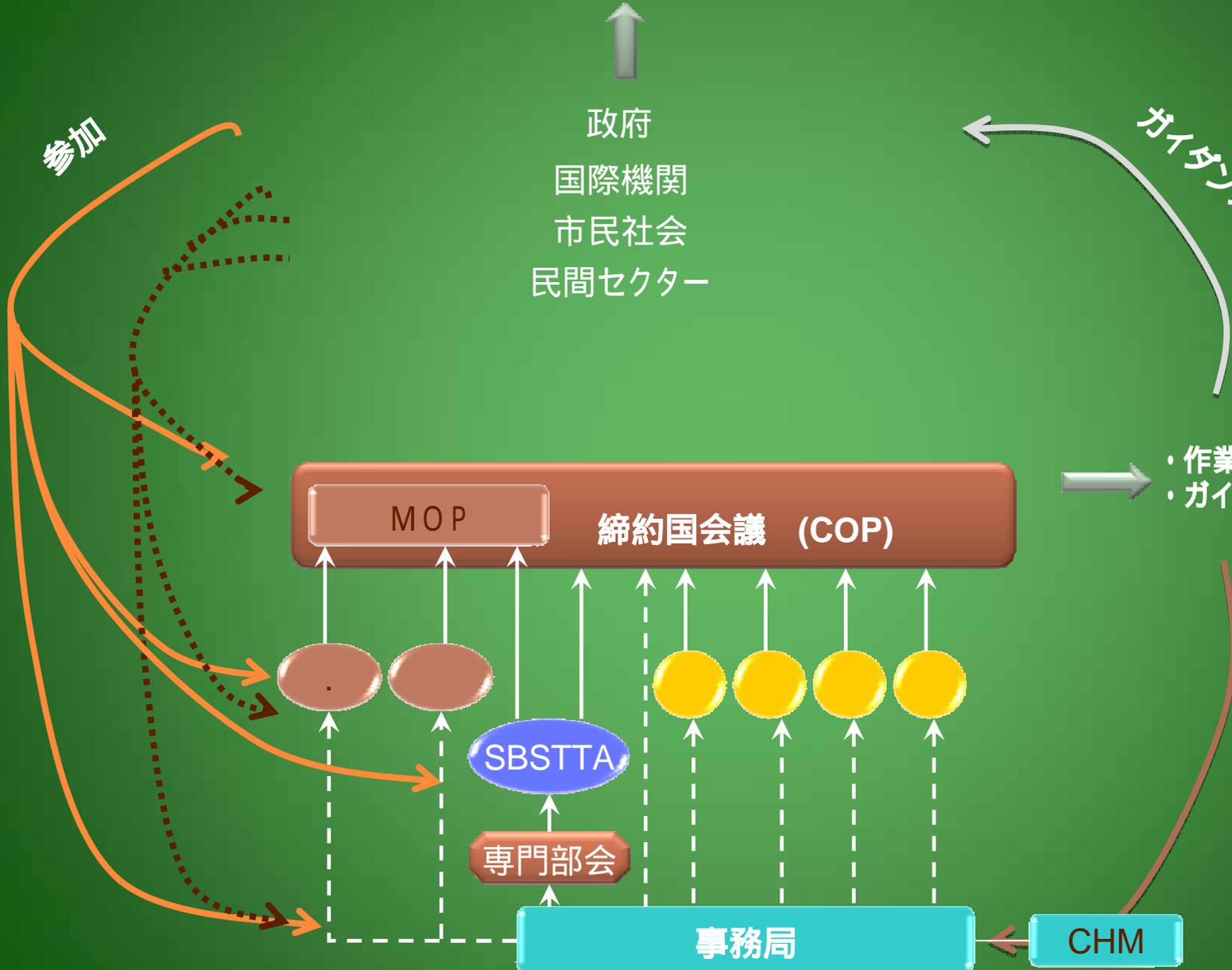


SBSTTA

専門部会



COPとは？



COP議論の流れ

環境をまもろう！
熱帯雨林が大事



長く分かりづらい

主権を尊重しつつ、情報の共有を進め、新規の追加的予算があれば 新委員会の設置を検討

新委員会
が必要

主権の
尊重を!



情報共有を
!

そんな
予算はないよ

ただし、決議は190以上の国の総意という重み

多様な意見を尊重しつつ、 共同歩調をとる難しさ

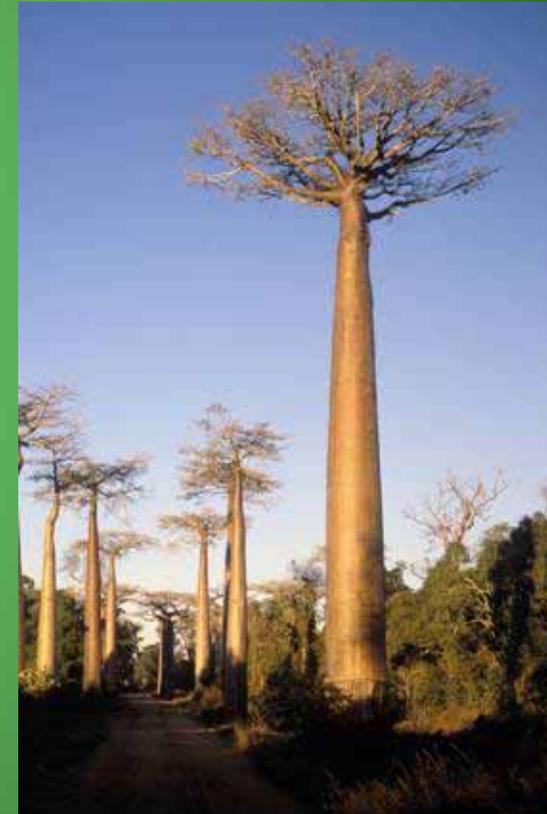
自分たちにとって自明でも、
同意や総意にいたるまで交渉

COPは分かった。
そもそも CBD 生物多様性条約は何をするところ？

生物多様性条約の目的

- 地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること
- 生物資源を持続可能であるように利用すること
- 遺伝資源の利用から生ずる利益を公平かつ衡平に配分すること
[略してABS]

(CBD 第1条)



持続可能な開発のための取り決め

CBDの特色

発展途上国の積極的な参加

- ABSなどにおいて積極的に発言

先住民の文化と生物多様性の関連性

- 国連のフォーラムでは権利の宣言が採択
- 洞爺湖サミットでは先住民サミット

作業計画 分野



ビジョン



基本方針



優先事項とターゲット



国家レベルにおける実施時のガイダンス



沿岸・海洋域



内陸水



森林



乾燥地
及び
半乾燥地



農業

山岳

島嶼

分野を横断する事項・課題



遺伝資源への
アクセスと利益配分



持続可能な
観光



伝統的知識
8(j)



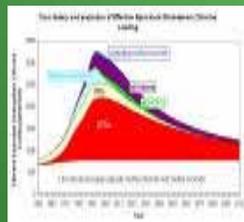
保護地域



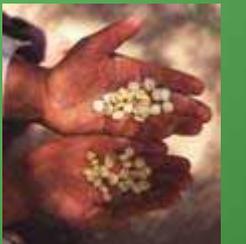
外来種



技術移転



科学的
アセスメント



GTI
地球分類学
イニシアティブ



指数



教育と啓蒙

CBDとは？

生物多様性：損失の要因

- 直接

- 生息の場の変化
- 気候変動
- 侵入的外来種
- 過剰な収穫
- 汚染（窒素や硫化物）

MAでは「農業」が最大の要因

- 間接

- 経済的活動
- 人口（人口成長）
- 社会・政治的要因
- 文化・宗教的要因

COP10

2010年をどうする？

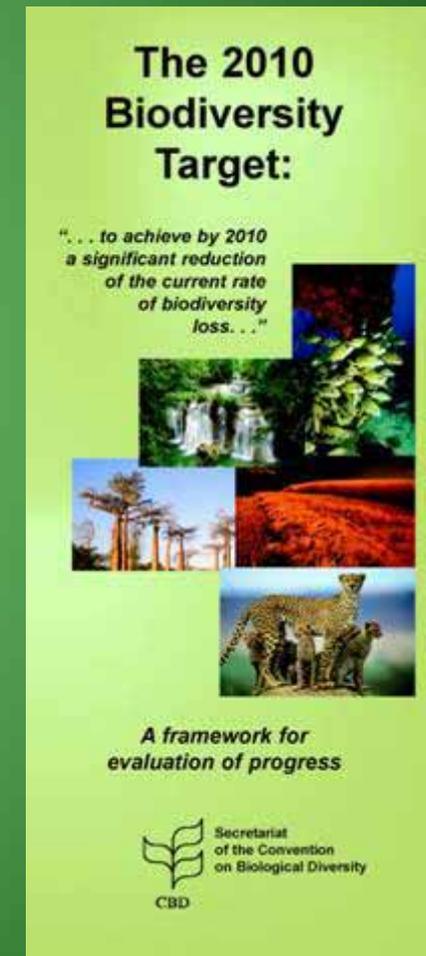
2010年は節目の年 三つの理由

- *2010年目標*
- *国際生物多様性の年*
普及・啓蒙面でさまざまなイベント
- *ABSの国際制度*
南北問題について国際制度を目的とする

2010年 目標

2010年までに生物多様性の 現在の損失速度を顕著に減少させる

- 世界、地域、国家レベルにおいて、貧困の緩和と地球上のすべての生命のために
- 2002年開催の生物多様性条約第6回締約国会議で採択された目標
- 持続可能な開発に関する世界首脳会議ヨハネスブルグ・サミット でも承認



国際生物多様性の年

- テーマは「発展と生物多様性」
- 展望の第3版 発表
(地球規模生物多様性概況3)
- イベント： 5月22日生物多様性の日 植樹
- 移動博物館、ワールドカップと連携、アース・デイ

2010年は節目の年 三つの理由

- *2010年目標*
- *国際生物多様性の年*
普及・啓蒙面でさまざまなイベント
- *ABSの国際制度*
南北問題について国際制度を目的とする
なぜ 合意できないのか？

なぜ、すぐに行動し、
食い止められないのか？

なぜ、なかなか食べ止められないのか

- 保全 vs 利用・発展（南北問題）
発展途上国は豊かになる権利も欲しい
- 政策－科学インターフェーズ
(科学的なリスク不確実性・対話)

生物多様性の特色

- 発展途上国に偏在
条約には発展途上国が活発に参加
熱帯雨林・マングローブなどに集中

なぜ、食い止められないのか

南北の対立とABS

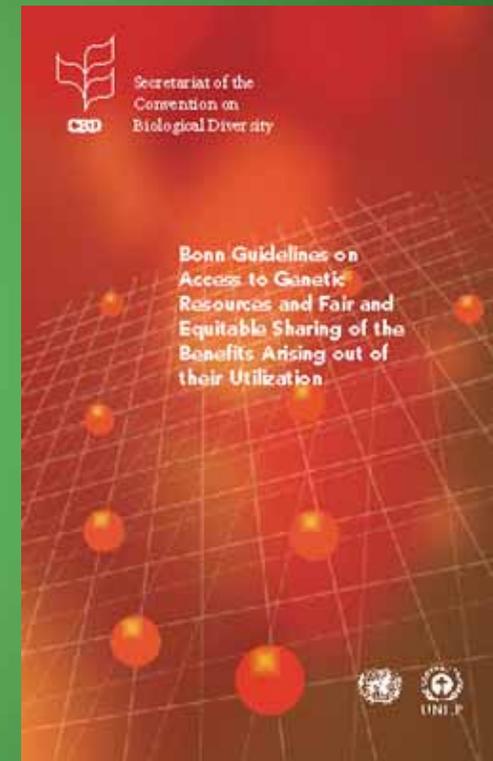
- 先進国や多国籍企業による原産国の遺伝子資源の収奪批判を反映

- 米国は批判的

(条約を批准しない理由の一つ)

遺伝資源へのアクセスと利益配分

- 条約の三番目の目的
- 国家が主権を持ち、アクセスを決定する権利を持っていることを条約は認識してる
- 2002年 COP6 において
ボンガイドラインとして採択
- ガイドラインなので法的拘束力はなし

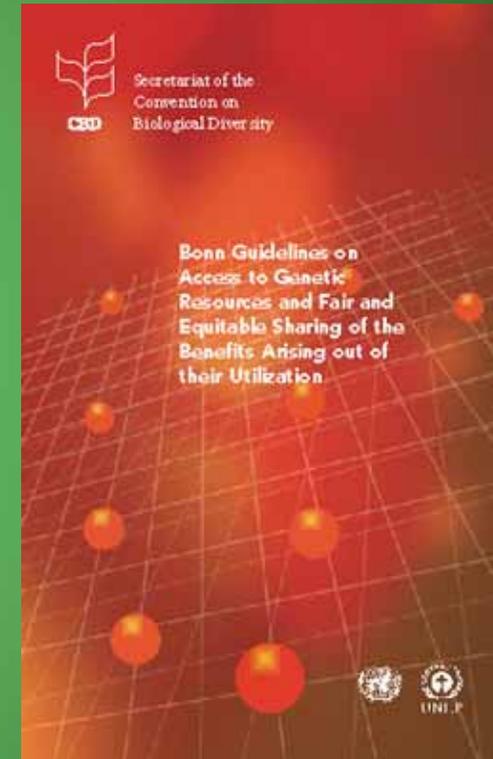


なぜ、食い止められないのか

遺伝資源へのアクセスと利益配分

国から国への遺伝子資源の移動 二カ国間のアクセスの取り決め

- ✓ ガイダンスを提供している
- ✓ 締約国の相互に同意された条件と事前の情報に基づく合意 (PIC) が必要
- ✓ 現場レベルの情報共有
- ✓ 訓練・適正技術の移転を促進



なぜ、食い止められないのか

なぜ、なかなか食い止められないのか

- 保全 vs 利用・発展（南北問題）
発展途上国は豊かになる権利も欲しい
- 政策－科学インターフェーズ
(科学的なリスク不確実性・対話)

SBSTTA 特色

- 1995年～2008年 13回 開催
- 条文25条 で設置
- 数百人～1500人弱 の規模
- 作業計画の開発・検討に貢献
- 11のAHTEG(アドホック専門家会合)設置
[森林もその一つ]

SBSTTA 問題点

CBD組織上の論点

今後の課題

生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10)

COP10での会議参加者数・期間

参加者

190カ国の締約国、国連諸機関、NGO等、約7,000人が参加見込み

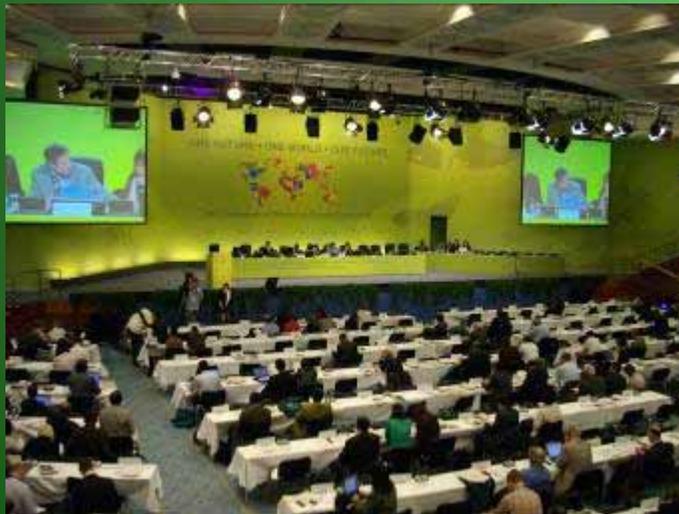
期間

約3週間

2010年
10月11日
開会 ←

3週間

→ 閉会
2010年
10月29日



COP9(ドイツ・ボン)会議場の様子

MOP

(カルタヘナ議定書締約国会合)
2010年10月11日～15日
(5日間)

COP

(生物多様性条約締約国会議)
2010年10月18日～29日
(12日間)

閣僚級会合

10月27日～29日
(3日間)

サイドイベント・ワークショップ等

(国際的問題・課題に関するもの)
出席者は会議出席者中心

COP10に向けての政治的課題

南北の対話、新興国との対話

- ・火種 ABS バイオ燃料
水産資源（私見）

国際環境NGOとの対話：

- イニシアティブのなさ
- 基金への拠出

小さな成功を積み重ねて、互いに信用を

COP10に向けての政治的課題

科学での領域

- Post-2010目標の設定

政治領域

- ABS の国際制度
- 責任と救済

COP10に向けての科学的課題

COP10 集中的に検討される事項：

- 沿岸・海洋域
- 内陸水
- 持続可能な利用
(ちなみにCOP9では、農業、林業)

経済分野

「生物多様性のサービス」に関わる経済的価値

外国の方が 期待する 日本・なごや の役割

- 便利なインフラ設備（空港も近い）
- ものづくり 災害復興の経験（自然の再生技術）
- 人口の規模 大きすぎず 他国の参考・模範に

今後の課題

- コミュニケーション

模範事例・ガイドラインの情報発信・文化摩擦のリスクと相互理解のチャンス

自治体・産業界の政策への関与

(生物多様性基本法, COP9の決議 基本法13条)

今後の行動

- セクターを越えた対話を！

生物多様性条約 は 環境保全家だけの集いではない（保全・利用・配分）

「メインストリーミング」

- 発展途上国との国際協力の実績のアピール

COP9 ドイツでは GTZ が 会議の運営で中心的役割

（ABS の関連プロジェクトも運営）

- NGO/企業もバラバラではなく、意見を集約化

（COPでは、組織の林立・重複は避けるべき）

ご清聴ありがとうございました



香坂 玲

電子メール:

kikori36@gmail.com

www.4kbro.com

